

という意図があります。特にネットなどの先進ツールを用いる時こそ、より人間味が感じられるものにしていく配慮があるべきだと私は考えます。元々事務的な内容ではないホームページではあります。お寺に対して少しでも親近感を持って頂くための継ぎ足しをした格好です。あとはもう少しサボらずに小まめに更新していくことが課題です。(笑)ご興味のある方は是非、ホームページから住職紹介ページを覗いてみて下さい。

一緒に御詠歌をお唱えしてみませんか?  
**～梅花流詠講歌～**  
**初心者大歓迎!!**  
 お寺では月二回程度、御詠歌をお唱えする会を実施しています。みんなで声を出してお唱えし、御仏の教えや慈しみの心に触れながら、お茶を飲んでお喋りをして楽しく過ごしています。  
 みんな初心者ですのでお気軽にご参加下さい。  
**見学・体験は、お寺までお問合せ下さい!**  
 次回予定日 ➡ 7/22(月) 14:30  
 8/26(月) 14:30

**フェイスブックページあります!**  
 アカウントをお持ちの方は、是非、「いいね!」ボタンを押して下さい。「観音院」で検索できます。

# 寺報

## 令和元年 夏

冠省 元号が変わり二カ月あまりの時間が経ちました。「令和」という響きにも世の中全体が段々と慣れてきたような気も致します。私達の生活は元号が変わったからといって、何かが劇的に変わることはありません。実際に個人としては、この時代の潮目に際して「何かが変わった」ということではなく、「変えること」の出来ない何か?」の方が強く浮き彫りになった感じがしています。それは私達の誰もが漠然と抱いているこの時代特有の「違和感」のようなもので、決して変えたり消したりはできずに私達を覆っているものです。人が時代を作っているのに、その時代に人はついていけない。何かが違う気がするのには何か違和感からない。この私達の抱える時代特有の違和感の正体は一体何なのでしょうか。



花火大会にてかき氷を作る住職と寺族

長いデフレが産んだのは、経済の不況ではないかと私は懸念します。物事があまりに早いスピードで変わっていく中、現代社会は生産性でのみ人の存在価値を決定し、生産性がなければ居場所を模索しながらも、それが見つからない世の中を私達は無意識に作り上げてしまっています。会社も信じられず、国家も信じられず、友人も信じられず、そしてついには家族すら信じられなくなるわけです。今では耳に入ってくる報道のニュースでさえも信頼できません。人が人を信頼しなくなるというのは、経済だけの話ではなく、人の存在のあり方において致命的なダメージを与えるでしょうし、これでは世の中全てが良くなるわけがありません。どんなに頑張っても生産性の高い人材になってもこの問題が解消されないわけですから、私達には違和感だけが残り、それが既にある物事に信頼できなくなれば、信頼の不況こそが、この違和感の正体ではないのでしょうか。

さて、この信頼の不況という問題がわかったところで、私達がすべきことは二つあるのかと思います。一つは、そういう中で生き抜いていく覚悟を決めることです。出来ることなら、こんな世の中を変えたいですが、私達もそうしなくてはなりません。むしろこの不況はより深刻化していくと考える方が必然です。あまり積極的な姿勢ではありませんが、

### お寺の伝言板

- お盆経について  
お盆経日程のご案内ハガキは既に送付しております。手違いなどで届かない場合は、お寺までご連絡下さい。
- お盆経の日程変更について  
日程が合わない場合は、変更は可能ですが、限定された日時希望は対応出来ません。お寺側で代替案となる日時をいくつかお伝えしてそこからお選び頂く形になります。ご協力下さい。
- お盆の納骨堂への読経について  
住職がお寺にて待機する日程は八月十三日～八月十六日までです。葬儀などで途中で外出する場合がありますので、読経希望の方は事前にご確認下さい。(原則として十時～十二時は待機するようにしていますが、同時時間帯についても事前にご連絡下さい。)
- お盆の集合壇への読経について  
右記同様、八月十三日～八月十六日が住職が待機する日程です。お勤め希望の場合は事前にご連絡下さい。混雑時は三階御内仏前にてお勤めする場合があります。工事の都合上、お参りの場所が移動となる場合がありますが、ご了承下さい。
- 駐車スペースについて  
現在増築工事中となっておりますが、お盆期間中は工事を一時中断致します。庫裡前(工事の建物前)も駐車出来ますので、ご利用下さい。斜め向かい側の駐車場も利用可能です。

無為無策でやっていける程、先々は甘くないでしょう。だからこそ「生き抜くんだ」ということ。そしてもう一つ言いたいのは、この問題の根底は政治や経済ではなく、もともと身近なところにあるという事です。それは、私達一人一人が目の前の相手に対して「あなたがいなくてもいいから構えてます」ということを伝えるだけという構えです。たとえ世の中の全てが信じられないようになって、たった一人でも無条件で自分の存在を喜んでくれる人がいれば、自己存在の価値をその人から与えてもらうことができず。その想いを伝え合える質の高い人間関係が一つでもあれば、孤立を深め、心が塞ぎ込むような致命傷にはならないでしょう。

例えば、父親と子供であれば「家族が大切だから一生懸命働いている」それが何よりも「あなたがいなくてもいいから」これは父親目線では何の間違いもありません。これは父親目線では「父だと思いませんか。相手が伝わるような働き場所が出来るかどうか、そこに我が子の居場所があるかどうか、そんな余裕はないかもしれません。しかし仮にそれが、あなたと同じことが言えるでしょうか。あなたが願うのは、懐かしい友人でも近所の住民でも、人と接する時はいつでも「あなたがいなくてもいいから私に幸せです」という構えを備えていて欲しいという事です。そして出来るだけそれを伝える工夫を付け焼き刃ではなく、常に「あなたが生産性を高めるわけにはありません。あなたの生産性を直接高めるわけにはありません。勿論、深い信頼を集めていくには現代社会においては生産性の高い人間になることは否定しませんが、人に居場所を作ることだと私は思います。



まれい 希衣 (三歳)      きほ 希帆 (五歳)      きわ 希羽 (五歳)      ねね 希寧 (七歳)

お陰様で子供達は元気です!  
 花火大会イベントでは全員浴衣に着替えてお出迎えしました! 準備も手伝ってくれて、みんな少しずつですが、成長しています!